

地盤工学会関東支部
液状化に係わる被害のメカニズムと名称を考える委員会
2022年度 第11回委員会 議事録

【開催日時、場所、出席】

日時	2022年11月7日(月) 14:00~16:30					形式	Zoomミーティング	
委員長	吉田 望	○	幹事	石川 敬祐	○	幹事	平松 登史樹	○
顧問	石原 研而	×		沢津橋 雅裕	○		菊本 統	×
	加藤 一紀	○		安達 夏紀	○		原田 健二	○
	石川 明	×		清田 隆	×		飛田 善雄	×
	笹岡 里衣	○		三上 武子	×		澤田 純男	○
	大矢 陽介	×		安田 進	○		加藤 謙吾	○
オブザーバー	青柳 悠大	△						

【配布資料】

資料 2022-11-1 : 2022年度第11回委員会 議事次第

資料 2022-11-2 : 2022年度第10回委員会 議事録

資料 2022-11-3 : 【話題提供】澤田委員(学生)

資料 2022-11-4 : 成果報告の分担について

【議事内容】

1. 前回議事録の確認

前回議事録が承認された。

2. 話題提供の主な質疑・コメント

〈澤田委員代理：栗間氏〉

- ・間隙が大きくない場合に「内部浸食」という表現は適切か
- ・土粒子のモデルを○で表現するのには抵抗を覚える人が多い
- ・過剰間隙水圧の定義について、初期応力からの差分より、拘束圧で考えた方が全応力の変化に対応できる
- ・(1次元動的応答解析-Case2について) 混合体として土全体の加速度を出すと分かりやすい

3. 成果報告の分担について

吉田委員長より、現時点での報告書案が示された。

○主な議論・意見

- ・液状化メカニズムに関して、液体状を維持できるか、液体状をどう定義するかという視点
- ・メカニズムについて表記し、それを実現象・実務に展開していくのが望ましい。
- ・「密な地盤の液状化」というのは定義的におかしい？（初期液状化には至るがひずみは大きくならない）
→液状化に含まれるが、変形性能に関する文章が書けると良い。データが出せるか。
- ・5章の内容は世の中の実状を述べているので、3章あたりに持ってくるのが良いか
具体的な内容は付録へ。エクセルの表などはA4見開きを想定して。

○割り振り

吉田委員長以外（敬称略）

2.5.1 被圧水：安田

2.5.4 二次液状化：三上

2.5.5 再液状化：石川敬祐

2.5.6 間隙水が関係するそのほか：安田

2.5.7 搖動：安田

5.2（仮）地盤工学会年次大会：文献調査グループ①（代表：沢津橋）

5.3（仮）土木学会地震工学研究発表会：文献調査グループ②（代表：加藤謙吾）

？ 密な地盤の液状化：沢津橋（データ次第）

「資料 2022-11-4：委員会報告案（元ファイル）.docx」を元に作成する。

4. その他

- ・委員会資料の共有サイト

<https://mypocket.ntt.com/mypocket/login/>

ID: JGS_Liquefaction Pass: 2019ekijouka

5. 次回開催日について

1月中旬～下旬で調整